

新しい「長期ビジョン」について

1 今回策定する計画の期間について

- ▶ 長期ビジョン(仮称) 10年後(2030年)ないし20年後(2040年)を展望
- ▶ 中期計画(仮称) 概ね4年間の計画(2019年10月～2024年3月)

2 長期ビジョン(仮称)の策定に向けて

- ▶ 以下の4つの論点で現行の長期ビジョンをベースに議論を進めてはどうか
(ただし、柱立てなどの再構築は別途議論とする(中期計画の具体化と併せて))
 - ⇒ 論点1: 現行の長期ビジョンを継承すべき点はどうか
 - ⇒ 論点2: 社会情勢や府民ニーズの変化を踏まえ新たに加えるべきものはどうか
 - ⇒ 論点3: 基盤整備的な要素(ハード整備)を新たに盛り込んでどうか
 - ⇒ 論点4: 府民に分かりやすい長期ビジョンとするための工夫はどうか

現行の長期ビジョン（目指すべき社会の基本方向）

新しい長期ビジョン(仮称)を考察する上での視点・コンセプトの例示

① 府民安心の再構築

- (1) 子育て・子育ての安心
安心して子どもを産み、育てられる社会へ
- (2) 学びの安心
生涯を通じて、一人ひとりの個性と能力を伸ばす教育機会が確保された社会へ
- (3) 働きの安心
やりがいの持てる仕事への就業機会が確保された社会へ
- (4) 医療・福祉の安心
健康で突然の病気やけがなどでも困窮することのない社会へ
- (5) 長寿の安心
安心して年齢を重ね、長寿を謳(おう)謳歌(おうか)できる社会へ
- (6) 暮らしの安心
犯罪や事故の危険性が小さく、災害にも強い社会へ

② 地域共生の実現

- (1) 人権尊重
一人ひとりの尊厳と人権が尊重され、だれもが自分らしく生きることのできる社会へ
- (2) 地域力再生
地域の課題解決に向け、地域のみんなが連携・協働する社会へ
- (3) 新たなコミュニティづくり
自由で開かれた新しいタイプのコミュニティのある社会へ
- (4) 男女共同参画
男女が社会の対等な構成員として様々な場で自己実現できる社会へ
- (5) ふるさと定住
だれもが生まれ育った土地に住み続けられる魅力ある社会へ

③ 京都力の発揮

- (1) 人づくり
次代の京都を担う人や、世界を舞台に活躍する人づくりの京都へ
- (2) 環境の「みやこ」
持続可能な人類社会のモデルとして、世界の範となる環境を実現する京都へ
- (3) 文化創造
豊かな伝統文化を継承し、新しい文化が次々と萌芽(もえぎ)する卓越した文化力のある京都へ
- (4) 産業革新・中小企業育成
京都経済を支える中小企業が安定した経営を行う中で、未来を切りひらく産業のイノベーションが進展する京都へ
- (5) 交流連帯
府域の内外を快適に移動したり情報をやりとりでき、世界中から人々が集い交わる京都へ
- (6) 希望に輝く地域づくり
それぞれの地域が「みやこ」となるよう夢のある地域構想が展開する京都へ

<生活関係>

- ◎ 自然災害から命を守る危機管理体制が確立した社会
- ◎ 高齢化や病気によるリスクが大幅に軽減された社会
- ◎ 将来に夢を持って子供を産み育てられる社会
- ◎ 少年犯、再犯、薬物犯が大幅に減り、交通事故死、殺人・強盗等凶悪犯罪ゼロを目指す社会
- ◎

<地域づくり関係>

- ◎ 誰もが「ふるさと」に誇りを感じられる社会
- ◎ あらゆる人の個性を認め合い人権が尊重される支え合いの社会
- ◎

<産業関係>

- ◎ 起業・経営環境が日本一の社会
- ◎ 京都ブランドの農産物が世界ブランドとなる社会
- ◎ 観光客との交流が広がり、新たな文化・産業が生み出される社会
- ◎

<基盤整備関係>

- ◎ 学研地域の研究機関と中小企業との協働による先端的な経営が実現する社会
- ◎ 鉄道の複線化、高速道路網整備により通勤・通学時間の負担が軽減される社会
- ◎

<文化・スポーツ・環境関係>

- ◎ 子どもの頃から京都文化に気軽に触れ合い誇りを持つことのできる社会
- ◎ 文化と産業の融合により新たな発展を生み出す社会
- ◎ 誰もがスポーツに親しめる社会
- ◎ 気候変動に適応し、エネルギーが自立的に供給できる持続可能な社会
- ◎

<人づくり関係>

- ◎ 全ての人の「学び」が保障され、夢が実現できる社会
- ◎ 大学生と地域との結びつきを強め、府内出身大学生が「京都に惹きつけられる」社会
- ◎